

平塚市自殺者数推移

資料1-1

1 自殺者年推移

内閣府発表データ(警察庁自殺統計ベース)をもとに作成

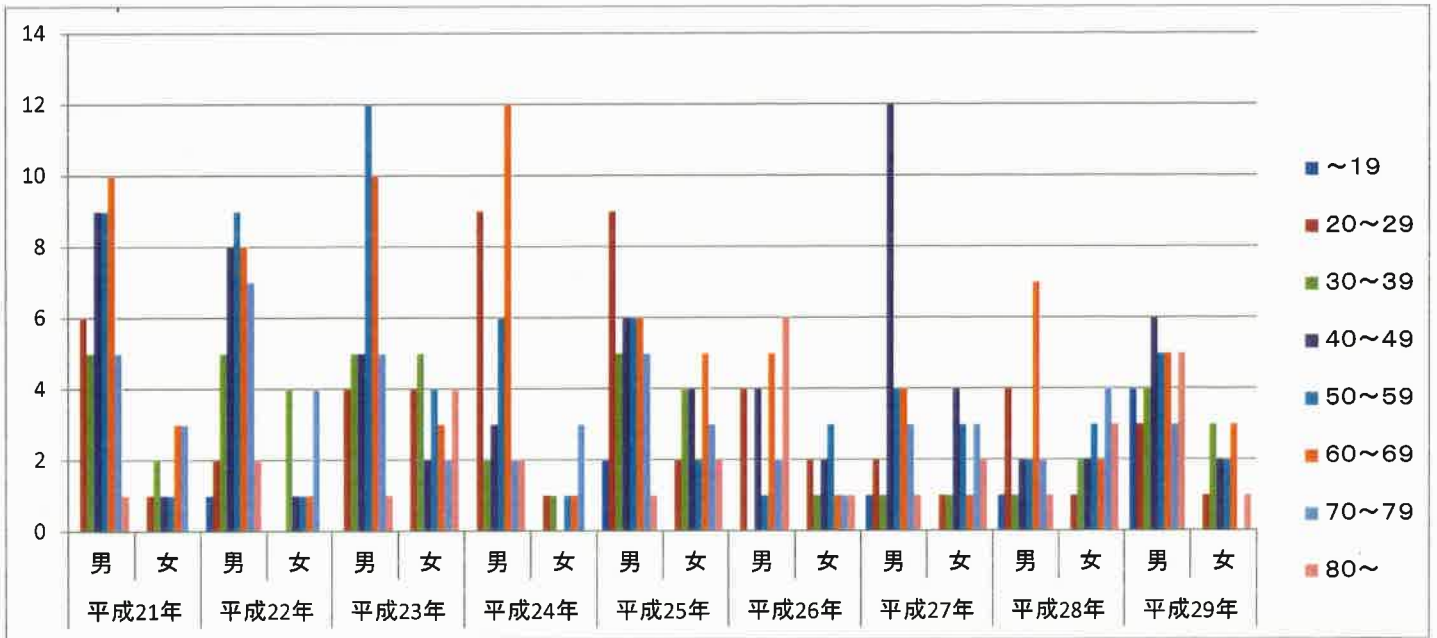
年(1月~12月)統計

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総数	56	53	66	43	62	33	43	37	47
自殺率	21.8	20.6	25.7	16.8	23.9	12.7	16.7	14.4	18.26
人口	257,427	257,387	257,248	256,688	259,640	259,171	258,065	258,273	258,141

2 年代別自殺者推移

内閣府(~平成28年度)及び厚生労働省(平成28年度~)発表データ(警察庁自殺統計ベース)をもとに作成

年代	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
~19	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	4	0
20~29	6	1	2	0	4	4	9	1	9	2	4	2	2	1	4	1	3	1
30~39	5	2	5	4	5	5	2	1	5	4	0	1	1	1	1	2	4	3
40~49	9	1	8	1	5	2	3	0	6	4	4	2	12	4	2	2	6	2
50~59	9	1	9	1	12	4	6	1	6	2	1	3	4	3	2	3	5	2
60~69	10	3	8	1	10	3	12	1	6	5	5	1	4	1	7	2	5	3
70~79	5	3	7	4	5	2	2	3	5	3	2	1	3	3	2	4	3	0
80~	1	0	2	0	1	4	2	0	1	2	6	1	1	2	1	3	5	1
小計	45	11	42	11	42	24	36	7	40	22	22	11	28	15	20	17	35	12



【平塚市の傾向】警察統計(自殺日・住所地)より、平成21年~29年の合計440人

○全体的には減少傾向とれなくもないがここ数年増減を繰り返しており、減少しているとまでは言えない。

○男女比 7:3

○年齢別 60代、50代、40代、70代、20代、30代、80代の順

○同居人 あり 70.7%

○職業別 被雇用者27.8%、自営業・家族従事者8.0%、年金雇用保険等生活者16.1%、主婦9.4%、その他無職者29%

○原因動機別 健康問題29.4%、経済・生活問題16.2%、

○未遂歴 あり 21.6%

平塚市の自殺の現状（地域自殺実態プロフィールより）

自殺総合対策推進センターから平塚市の平成 24 年から 28 年までの自殺者数合計 218 人（男性 146 人、女性 72 人）のデータを分析した「地域自殺対策プロフィール（2017）」が提供され、次のような特徴等が示されました。

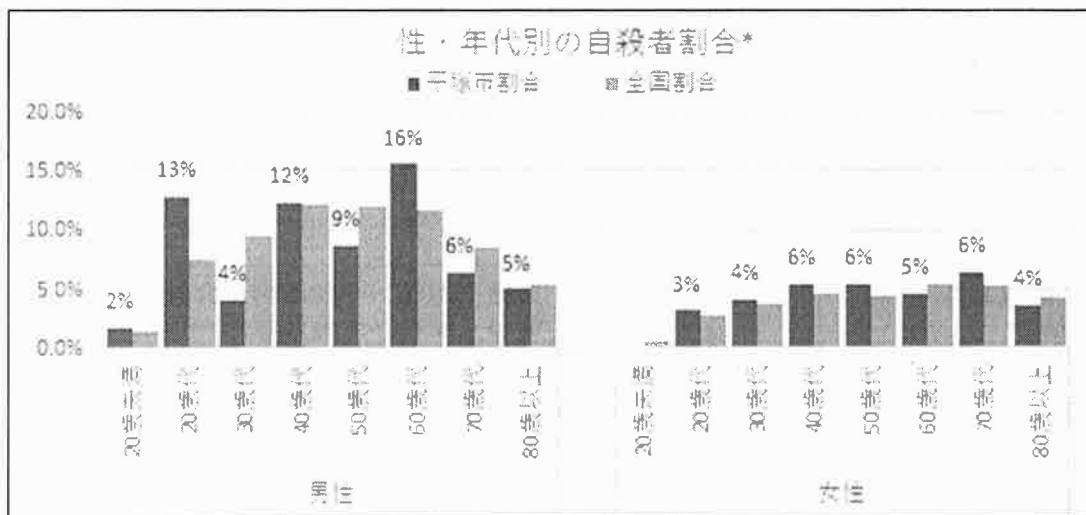
1. 自殺者数

図表 男女別自殺者数年推移 警察統計（平成 24 年～28 年）

	H24	H25	H26	H27	H28	合計	平均
自殺統計 自殺者数 (自殺日・住居地)	43	62	33	43	37	218	43.6
自殺統計 自殺率 (自殺日・住居地)	16.8	23.9	12.7	16.7	14.4	-	16.9

2. 自殺者の性・年代別の資料（自殺統計（自殺日・住居地））

図表 自殺者の性・年代別の割合



3. 勤務・経営関係資料

図表 有職者の自殺の内訳（自殺日・住居地、H24～28 合計）

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	19	22.9%	21.4%
被雇用者・勤め人	64	77.1%	78.6%
合計	83	100.0%	100.0%

4. 高齢者関連資料

図表 60歳以上の自殺の内訳（自殺日・住居地、H24～28 合計）

性別	年齢階級	同居人の有無 (人数)		同居人の有無 (割合)		全国割合	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60歳代	20	14	22.0%	15.4%	18.1%	10.7%
	70歳代	11	3	12.1%	3.3%	15.2%	6.0%
	80歳以上	7	4	7.7%	4.4%	10.0%	3.3%
女性	60歳代	7	3	7.7%	3.3%	10.0%	3.3%
	70歳代	12	2	13.2%	2.2%	9.1%	3.7%
	80歳以上	4	4	4.4%	4.4%	7.4%	3.2%
合計		91		100%		100%	

5. 国から示された平塚市の主な自殺の特徴

図表「平塚市の主な自殺の特徴」は、自殺者の上位5区分の性別・年代等の特性と「背景にある主な自殺の危機経路（※次ページ参照）」を参考にした本市における自殺者の特徴です。

平塚市の自殺対策の重点対象者は、**高齢者・生活困窮者・勤務者**となっています。

図表 平塚市の主な自殺の特徴（自殺日・住居地、H24～H28 年合計）

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性 60歳以上 無職同居	28	12.8%	29.7	失業（退職）→生活苦＋介護の 悩み（疲れ）＋身体疾患→自殺
2位:男性 40～59歳有 職同居	24	11.0%	17.1	配置転換→過労→職場の人間関 係の悩み＋仕事の失敗→うつ状 態→自殺
3位:女性 60歳以上無 職同居	21	9.6%	13.9	身体疾患→病苦→うつ状態→自 殺
4位:男性 60歳以上無 職独居	16	7.3%	93.3	失業（退職）＋死別・離別→う つ状態→将来生活への悲観→自 殺
5位:男性 20～39歳無 職同居	16	7.3%	67.1	①【30代その他無職】ひきこも り＋家族間の不和→孤立→自殺 ／②【20代学生】就職失敗→将 来悲観→うつ状態→自殺

参考表) 地域の自殺の特徴について

参考表1) 生活状況別の自殺の背景にある主な危機経路の例

生活状況				背景にある主な危機経路の例
男性	20~39歳	有職	同居	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺/②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
		無職	同居	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
	40~59歳	有職	同居	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
			独居	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
		無職	同居	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
60歳以上	有職	同居	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺	
		独居	配置転換/転職+死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺	
	無職	同居	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺	
		独居	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺	
女性	20~39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ②仕事の悩み→うつ状態→休職/復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺
	40~59歳	有職	同居	職場の人間関係+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
			独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
	60歳以上	有職	同居	介護疲れ+家族間の不和→身体疾患+うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺

主な危機経路の例は自殺実態白書 2013 (ライフリンク) を参考にした。

分野	項目	内容	実績及び実施状況
普及啓発	<p>■相談窓口案内「気づいてくださいこころのサイン」を活用した普及啓発</p>	<p>「ひとりで悩まず相談を」というメッセージと相談窓口の情報を広く伝えることを目的に作成。児童生徒を通じて家庭に情報へ届けるため全小・中・高等学校へ配付。待ち時間等に手に取ってもらえるよう病院、薬局、歯科医院へ配架。キャンペーンや研修会等の参加者へ配付するなどの機会を通じ広く周知普及啓発を図る。</p>	<p>全小中学校、高等学校児童生徒教職員へ配付、病院・薬局・歯科医院・ハローワーク等公共施設へ配架、民生委員児童委員・よろず相談センター等関係団体・各種研修会・会議参加者への配付、イベント、キャンペーン等での配布、駅地下広告板を活用し拡大したものを掲示、市民課で転入者用資料・こんにちば赤ちゃん事業等で配付、各課に配架。（配布数約55,000枚）</p> <p>H30年度は、上記に加えてJR平塚駅構内、家族介護教室で配架・配布。</p>
	<p>■メンタルヘルスセルフチェックシステム「こころの体温計」を活用した普及啓発</p>	<p>幅広い年齢層にうつへの早期気づきを促すとともに心の健康に関心を持ってもらうことを目的に、パソコンや携帯電話を使って簡単にストレスや心の落ち込み度がチェックできるメンタルヘルスセルフチェックシステムを導入し、サービス提供。併せて各種相談窓口の情報も掲載。</p>	<p>メンタルヘルスチェックサービス「こころの体温計」のサービス提供。全8メニュー（「本人モード」「家族モード」「あかちゃんママモード」「アルコールチェックモード」「ストレス対処タイプテスト」「いじめのサイン守ってあげたい！」「これって愛？、これってDV？」、「大切な人を突然亡くされたあなたへ」）をパソコン及びスマートフォンAndroid版アプリ、ios版アプリで公開。</p> <p>平成29年度アクセス数：78,701件 平成30年度アクセス数：56,524件（平成30年12月末時点）</p>
	<p>■自殺予防週間関連事業</p>	<p>世界自殺予防デーの9月10日から一週間を自殺予防週間として、期間中は自殺予防啓発活動を推進。</p>	<p>公共施設等へ自殺予防啓発ポスター掲示、広報ひらつか・HPへ関連記事掲載、FM湘南ナパサでの情報発信、図書館で「こころと命のサポートのための本」のコーナー設置・映画会を実施。</p> <p>街頭キャンペーン H29年度：8/30実施 H30年度：8/29実施</p>
	<p>■自殺対策強化月間関連事業</p>	<p>例年、月別自殺者数の最も多い3月は自殺対策強化月間として、関係団体等と連携して、自殺対策に関する広報啓発活動を推進。</p>	<p>庁舎本館多目的ホール、公共施設等へ自殺予防啓発ポスター掲示。広報ひらつか・HPへ関連記事掲載、FM湘南ナパサでの情報発信。中央図書館で特設コーナー設置・返却スリップ（返却期限を記載して貸出時に渡すしおり）にメッセージ記載・こころと命のサポート特集映画会を実施。</p>
	<p>■視聴覚教材を活用した普及啓発</p>	<p>いじめの問題や命の大切さをテーマとしたDVDやビデオを学校の道徳授業や人権教育に活用してもらうよう貸出。</p>	<p>11タイトル所蔵。作品リストを作成し、学校の人権教育担当者会で紹介。道徳授業、人権学習会などでの活用を図る。</p> <p>H29年度：4/27紹介。延べ3作品貸出。 H30年度：5/1紹介。延べ1作品貸出。（H30年12月末時点）</p>

こころと命のサポート事業（自殺対策）平成29年度実績及び平成30年度実施状況

分野	項目	内容	実績及び実施状況
普及啓発	<p>■命の尊さの普及啓発 (協働事業)</p>	<p>日ごろから本を通じた地域活動をしている団体と協働し、読み聞かせ等の活動を通じて「命の尊さ」の普及啓発や、自己肯定感を高めてもらうことを目的とした事業を実施。 協働先団体：浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会</p>	<p>○協働事業で作成した「いのちの尊さをつたえる本」Vol.4のリストを活用し、読み聞かせを実施してもらう。他地区の協議会にも配付して取組を紹介し周知・活用を図る。 ○いのちの尊さをつたえる本「今月のおすすめ」2冊を、コメントをつけてHPで紹介。 ○浜岳中学校と大野中学校に協力を依頼し、自殺予防啓発ポスターの作製、街頭キャンペーン、保育体験ボランティア(子どもたちのふれあいと通じて自己肯定感を育む。※浜岳中学校のみ)を実施。</p> <p>保育体験ボランティア実施回数及び参加者数 H29年度:3回実施、参加者延べ25人 H30年度:3回実施、参加者延べ21人</p>
	<p>■広報活動</p>	<p>リーフレット配布、ポスター掲示、HPやラジオでの情報提供、広報紙や機関紙等に関連記事掲載。</p>	<p>広報ひらつか記事掲載(わかちあいの会開催日程の周知)。FM湘南ナパサでこころの体温計等事業紹介、情報提供。HPやポスターを活用した情報提供、メッセージ発信。</p> <p>FM湘南ナパサでの情報提供 平成29年度:5/2、9/5、10/31、1/9、2/27 平成30年度:4/3、9/4、10/31</p>
人材育成	<p>■講演会等</p>	<p>命の大切さ、人と人とのつながり、家族の絆、心の問題等をテーマにした講演会を実施。</p>	<p>【生き方・命の大切さを学ぶ講演会】(中学校との共催企画) 中学生に命の尊さを伝えるとともに自己肯定感を高めてもらう講演会を実施。</p> <p>H29年度:3校(大住中・旭陵中・土沢中)で実施。 H30年度:4校(春日野中・江陽中・金旭中・神田中)で予定。</p>
	<p>■ゲートキーパー養成</p>	<p>自殺問題への正しい理解を深めてもらうとともに、身近な人の様子の変化に「気づき、声かけ、話を聴き、必要に応じて相談へつなげ、見守る(支え合う)」ことの大切さを伝えるために、養成講座を開催。修了者には、緑色のピンバッジ(神奈川県作成)を配付し、ゲートキーパーへの理解を広げていく。また、情報宅配便のメニューとしても提供。</p>	<p>H29年度:13回計457人養成 ①新採用職員…6/1 ②庁内職員…11/17 ③労務安全衛生協会地区会…6/16、23、30、7/5、10 ④地区民生委員児童委員協議会…6/7、7/13、11/24 ⑤大学生…9/20</p> <p>H30年度:8回計513人養成(平成30年12月末時点) ①新採用職員…4/11 ②地区民生委員児童委員協議会…5/22 ③専門学校生…5/25 ④大学生…5/29、9/19、11/8 ⑤小学校教職員…7/24 ⑥校務作業員…8/6</p>

こころと命のサポート事業（自殺対策）平成29年度実績及び平成30年度実施状況

分野	項目	内容	実績及び実施状況
人材育成	■自殺対策研修会	市民、関係団体、職員等を対象に実施。また、神奈川県等が実施する研修会に職員を派遣し職員の資質向上を図る。	<p>H29年度： 【開催研修】人権教育担当者会研修会…9/15 自殺対策担当者会議研修…11/16 庁内ゲートキーパー養成研修…11/17 【受講研修】自殺対策基礎研修Ⅰ…6/2 地域自殺対策検討会…6/15 ゲートキーパー養成指導者研修…6/19 依存症セミナー…7/26 中地区PTA等人権啓発研修会…10/4 地域自殺対策研修…9/14、11/10 働く人のメンタルヘルス研修…1/18 自殺対策基礎研修Ⅱ…1/19</p> <p>H30年度： 【開催研修】生徒指導者担当者会研修…6/22 人権担当者会議研修…9/20 小中教頭研究会研修…11/15 【受講研修】自殺対策基礎研修Ⅰ…6/20、地域自殺対策担当者検討会…8/8、職場うつとアルコール問題を考える勉強会…11/9、自殺対策基礎研修Ⅱ…12/6、生きることの包括的支援研修(未遂者・自死遺族支援)…12/13</p>
推進体制	■自殺対策庁内会議	庁内関係22課の課長職により構成。関係各課の連携・協力体制の構築、情報共有のために設置。	<p>H29年度：2/1会議、9/15研修(人権教育担当者会と合同研修)</p> <p>H30年度：9/20研修(人権教育担当者会と合同研修)、11/15会議</p>
	■自殺対策担当者会議	庁内関係22課の担当職員＋平塚保健福祉事務所、社協、平塚警察で構成。市民から寄せられる様々な相談が適切な支援につながるよう、関係各課の連携、情報の共有、また自殺対策に関する知識を深めていくために開催。	<p>H29年度：2/1会議、8/30街頭キャンペーン、11/16研修(小中学校教頭研究会と合同研修)</p> <p>H30年度：6/22会議・研修(生徒指導者研修会と合同研修)、8/29街頭キャンペーン、11/15会議・研修(小中学校教頭研究会研修と合同研修)</p>
	■平塚市自殺対策会議	平塚市民のこころと命を守る条例第16条に基づき、総合的な自殺対策を推進するため、平成22年度に設置。平成25年度から附属機関。	<p>H29年度：2/16</p> <p>H30年度：1/24</p>
その他	■自殺者等の実態把握	内閣府「地域における自殺の基礎資料」(警察庁自殺統計ベース/厚生労働省人口動態統計ベース)等から入手できるデータによる実態把握。自殺未遂者については、救急搬送(自損)件数による人数等の把握(消防救急課)	H29年中：自損事故救急搬送件数(155件出場、118人搬送)

こころと命のサポート事業（自殺対策）平成29年度実績及び平成30年度実施状況

分野	項目	内容	実績及び実施状況
その他	<p>■福祉総務課 保健福祉総合相談</p>	<p>複合的な課題を抱える相談者に対する支援として、総合的に相談内容を把握、整理し、複数の窓口にあつた相談については担当課との連絡、調整を行い、解決を図る。また保健福祉に関する情報の収集及び提供を行う。</p>	<p>来所・電話相談、窓口案内等に対応。関係各課、関係機関との連携及びつなぎに際し専門知識が必要となる困難ケース等の相談については社会福祉士が対応。</p> <p>H29年度相談件数：391件（内、こころの健康相談件数58件） H30年度相談件数：260件（内、こころの健康相談件数38件） ※平成30年12月末現在</p>
	<p>■くらしサポート相談</p>	<p>生活困窮者自立支援法の施行を受け平成27年4月1日から保健福祉総合相談に「くらしサポート相談」の窓口を併設し、生活困窮者の相談支援を実施。</p>	<p>相談員4名を配置。併せて社会福祉協議会の貸付相談の相談員を1名置き、保健福祉総合相談とくらしサポート相談、貸付相談が一体となって相談支援ができる体制を取っている。</p> <p>H29年度相談件数：2,604件 H30年度相談件数：2,751件 ※平成30年12月末現在</p>
	<p>■自死遺族支援</p>	<p>自死遺族の方が利用できる相談窓口の周知。自死遺族の方への理解を深めるための研修等の実施。 わかちあいの会（自死遺族の集い）開催とあり方の検討。</p>	<p>自死遺族の方が利用できる専用相談窓口、わかちあいの会の情報を周知。「わかちあいの会（自死遺族の集い）」開催（県共催）。</p> <p>H29年度：年6回開催、延べ21人参加 H30年度：年6回開催予定（4/24、6/5、8/7、10/9、12/4、2/5）</p>